

南富良野の魅力話して再発見

中高生と札幌国際大生が交流

【南富良野】町内の中高生と札幌国際大の学生が交流し、地域活性化などについて話し合う「次世代育成プロジェクト」が南富良野高で開かれ、町の魅力を再発掘した。

町の中高大連携事業の一環として南富良野高などが21日に開き、約80人が参加した。午前中は、札幌国際大の斎藤修教授が観光による地域づくりについて講演し、台湾の台南市安平地区で伝統の魔よけの歴史を掘り下げて、その魔よけを各家の玄関に設置したほか、商店街で関連商品販売し、観光に活用していることを紹介。斎藤教授は「町独自の観光空間を作るために歴史も一つの役に立つのではないかとアドバイスした。」

午後は、8班に分かれ夏の国設南ふらのスキー場の活用方法を議論。各班の学生が司会を務め

「斜面を生かした長い滑り台を作る」「夏でもスキーを楽しめるマットを敷いてはどうか」など意見が相次いだ。

南富良野高2年の木村匠杜さん(17)は「『花畑

をつくらう』という意見があり新たな視点だった」。同校OGで札幌国際大2年の中嶋華乃さん(19)は「南富良野は第2の故郷。私たちが交わした意見が町の将来の役に立てばうれしい」と語った。

(鹿野海人)



真剣な眼差しでスキー場の夏の活用方法について話し合う参加者ら